

日本仏教社会福祉学会 ニュースレター

No.22

■平成26年11月9日

■発行・編集 日本仏教社会福祉学会 事務局

CONTENTS

- ・平成26年度 日本仏教社会福祉学会第49回大会報告
- ・平成26年度 日本仏教社会福祉学会 第2回理事・役員会報告
- ・平成26年度 日本仏教社会福祉学会 第2回 臨時理事・役員会報告
- ・平成26年度 日本仏教社会福祉学会 総会報告
- ・第5回学会賞 募集要項
- ・『日本仏教社会福祉学会年報』投稿論文の募集
- ・『仏教社会福祉入門』を活用した勉強会について
- ・日本仏教社会福祉学会会員の研究・関心テーマに関する確認のお願い（再送）
- ・仮称「仏教ソーシャルワーク研究プロジェクト」について
- ・事務局 編集後記

日本仏教社会福祉学会

発行日：平成26年11月9日

発行：日本仏教社会福祉学会

事務局

〒354-8510

埼玉県入間郡三芳町藤久保

1150-1

淑徳大学埼玉キャンパス

社会福祉実習室内

TEL：049-274-1511（代）

FAX：049-274-1521

平成26年度 日本仏教社会福祉学会 第49回大会報告

平成26年10月11日・12日に同朋大学において第49回大会が開催されました。大会テーマは、『仏教社会福祉と災害支援ー将来の災害支援に向けてー』とし、一般にも公開された基調講演及びシンポジウム、研究発表が行われました。

【大会内容】

第1日目

物故者追弔法要

公開記念講演

「建学の理念と災害支援
- 同朋大学におけるその関係性 -」
沼波 政保 氏（同朋大学 元学長）

公開シンポジウム

「仏教社会福祉と災害支援
- 将来の災害支援に向けて -」

シンポジスト

大河内 真慈 氏
（真宗大谷派名古屋教区教化センター 研究員）
竜沢 悟 氏
（真宗大谷派名古屋教区教化委員会都市教化部門 幹事）
木越 康 氏
（大谷大学文学部真宗学科 教授）

コーディネーター

田代 俊孝 氏（同朋大学文学研究科 教授）

総会

懇親会

第2日目

研究発表

第1分科会

「ソーシャルワークにおける仏教の役割に関する日本・ベトナム比較研究 - 仏教保育研究における両国の現状に関する研究 -」

佐藤 成道 氏（淑徳大学）

「ベトナムのソーシャルワークにおける仏教の役割 - 現地調査報告（第2報） -」

菊池 結 氏（大正大学総合仏教研究所）

「消防職員・消防団員のメンタルヘルス面を地域で支えるための基礎研究 第二報

- 寺院僧侶に対する自記式調査の結果から -」

栗田 修司 氏（龍谷大学）

「寺院と自治体の災害時協力」

稲場 圭信 氏（大阪大学）

第2分科会

「「自己受容を」考える - 法然凡夫観を通じて -」

郡嶋 昭示 氏（浄土宗総合研究所）

「現代社会福祉の「経済的平等観」についての一考察 - 「仏教社会福祉学」の基礎概念として -」

瀬尾 俊治 氏（日本総合科学社会理論研究所）

「笑顔で心穏やかに他界されたH氏についての考察 - 認知症高齢者の正しい理解と環境整備の重要性、そして仏教 -」

佐伯 典彦 氏（社会福祉法人青山福祉会）

「「看取り介護」の現状と課題」

木野 美恵子 氏（同朋大学）

「現代社会における寺院運営のアイテム - 傾聴ボランティアに学ぶ -」

目黒 達哉氏 (同朋大学)

平成26年度 日本仏教社会福祉学会 第2回理事・役員会報告

日時：平成26年10月10日 (金)

14:58~17:15

場所：同朋大学Doプラザ閣蔵2階多目的会議室

出席 代表理事 長谷川 匡俊
個人理事 石川 到覚 清水 海隆
宮城 洋一郎 藤森 雄介 谷山 洋三
田代 俊孝 小笠原 慶彰 池上 要靖
団体理事 渋谷 哲 長上 深雪
三友 量順 小島 恵昭
監 事 梅原 基雄
欠席 個人理事 田宮 仁 村井 龍治
団体理事 徳岡 博巳 林 俊光 落合崇志
監 事 山口 幸照

同朋大学学長挨拶

本日は、遠いところを良くおいでいただきました。同朋大学学長の浅野でございます。

明日から開催される大会のなかにおいては、仏教という視点の中で、さまざまな問題を捉えています。それは、とても大事なことと考えております。今回、大会校として関わることができ、とても嬉しく思っております。何とか不足の無いようにしたいと思っておりますが、もし、何か不足がありましたら、遠慮なく言っていただきたいと思います。どうぞ宜しくお願い致します。



代表理事挨拶

只今、大会校の浅野学長先生からご丁寧な歓迎のご挨拶をいただきました。ありがとうございました。平成26年度第2回理事・役員会に遠方の各地から役員の皆様方にお集まりいただきまして、開催できますことを大変有り難く思っております。



今日の理事・役員会、明日の大会に向け、この間の準備に関しましては、同朋大学の小島先生と手前どもの淑徳大学の学会事務局と緊密な連携をとらせていただきながら、準備万端に整っていることと思います。また、3日間、同朋大学の関係の方々、お世話になりますが、どうぞ宜しくお願い致します。

今回の役員会では、後程、議案の中でご審議いただきますが、新たな事業、学会50周年大会に向けての事業の準備も含めて色々、慎重に検討していかなくてはならないことがございますが、今、学会そのものが、会員の減少というような中で、非常に厳しい環境下に置かれています。しかし、その中で着実に事業や活動が行われたことも事実で、外部からお認めいただいていることでもあります。しかし、ここで、理事・役員の方皆さん、一致団結して何とか意義ある学会として、もう少し社会に還元できるような取り組みをしていかなくてはならないと思っておりますので、宜しくお願い致します。

開会 事務局長より開会を宣言。

1. 定員数の確認

事務局報告

本学会、理事会規定により、20名中13名、委任状3通の過半数で理事会が成立する。

2. 議事

本学会規定により長谷川代表理事が議長となり、次のように審議された。

第1号議案：会員の異動について

事務局報告により、次の①新入会員1名、②退会会員5名について審査の結果、承認された。

①入会会員の承認 (順不同)

個人会員入会

1. 村上逸人

②退会会員の承認 (順不同)

1. 安井喜行 2. 間宮啓壬 3. 伊藤秀一

4. 奥井一幾 5. 大澤伸雄

したがって、平成26年10月9日現在、個人会員は、199名、団体会員24団体、計223会員となった。

また、会費未納会員について (3年以上の会費未納) には、前事務局の大正大学からの確認引き継ぎを行っているが、3年以上の未納会員の方が14名いる。学会の規約に基づきますと3年以上の未納会員については、退会勧告を行うこととなっているが、第1回理事・役員会でもふれた通り、事務局預かりで粘り強く交渉をしていくことが確認された。

第2号議案：平成27年度事業計画(案)及び 平成27年度予算(案)について

事務局より予算(案)の説明があったが、訂正部分等があったため、修正案を臨時理事・役員会の際に提出し、報告することとなった。

また、事業計画(案)については、以下のように示された。

第1回理事・役員会を4月の第4週目(ゴールデンウィーク前)を予定し、第2回理事・役員会を10月9日に予定している。

通常だと、大会前日に理事・役員会が行われているが、第1回理事・役員会に承認いただいた通り、淑徳大学で予定している「国際フォーラム」との絡みもあるので、第2回理事・役員会を10月9日(金)の午前中の予定している。また、第50回学術大会についてだが、平成27年10月10日(土)に淑徳大学千葉キャンパスにおいて、大会1日目を行う予定。

年報については、9月30日に第44・45号合併号が刊行された。次号からは、通常刊行の年1回のペースに戻す形となる。第46号を予定している。

アジア仏教社会福祉学術交流基金 研究・公開助成事業関連として、第50回大会を「第2回 アジア学術交流大会」とすることが確認された。

学会賞・学術賞・奨励賞については、次年度が該当年となっている。

広報については、年2回のニュースレターの発行を予定している。また、ホームページについては、この間、社会福祉系学会連合のホームページの担当業者が変更した関係で、少々ホームページの移行が遅れていたが、現在は、閲覧できる状況となっている。適時更新をしながら取り組んでいきたい。併せて、ネット上での広報活動もしていきたい。

研究事業については、「仏教ソーシャルワークプロジェクト」、3年前から続いている「東日本大震災対応プロジェクト」についても引き続き行っていきたい。

併せて特別事業として、第50周年の記念事業の一環である、記念誌の刊行事業は、宮城先生が主担当で、準備を進めていただいている。

また、定期的に事務局が異動する中で、なかなか資料の保管ができていない状況となっている。現在、淑徳大学事務局にあるものも、第35回大会以前のものが、揃っていない状況。総会、ニュースレター等でお手持ちにある学会誌で、第35回大会以前のものをお借りしたい旨をお願いします。

以上のような事業計画について、審議の結果、承認された。

第3号議案：50周年記念誌について 宮城理事

キリスト教社会福祉学会50周年記念誌を参考にしながら記念誌の構成をどのようにするか、村井先生と清水先生と相談しながら立てた。

50年を振り返った時に、通史編というものが出てきた。第1号から最近号までの学会事務局報告を調べていって、どのような形で発展してきているのかを見ていた。

先生方のご意見をいただきまして、会員数で時代区分をすることが良いことなのかも含めて検討していただければ有り難い。

3月に出版されました『仏教社会福祉入門』も刊行され、非常に発展された展開がなされた。

藤森先生がやっておられる東日本大震災の研究プロジェクトや石川先生がやっておられる「仏教ソーシャルワーク研究プロジェクト」も追加すべきではないかと考えた。学会それぞれの担当の先生方に聞き取りや執筆活動をお願いしたい。

座談会も記念誌の中でもやって、歴代の学会代表理事による座談会によって、それぞれの苦労や今後のご意見を賜っていくことも必要になってくる。

50年史の年表が一番大事になってくる。学会の事務局報告をベースにしながら、さらには、大会のパンフレットも併せて年表を早急に作成する必要があると考えた。

先生方と協議を重ね、日程調整や校正案の叩き直しをやっていければと考えている。

代表理事

宮城先生を中心に大綱が作成されつつあるのは、大変心強い限りである。

お話をうかがっていて、気が付いたことだが、1つは、社会の動向との関連で、社会の動向は、社会福祉の側からと仏教の側からという意味で考えたのだが、社会福祉の側から考えるとマンパワーの問題が丁度、この発展期に(全てではないが)重なるように思う。

文部科学省が18歳人口の減少を視野に入れて、学部・学科についての申請の抑制に入ったが、その時に抑制の外に置かれたのが、福祉となる。それで軒並み福祉系の学部・学科が出来てきた。福祉系の学部・学科が出来てくる中で、仏教系の大学も福祉を学部・学科で作ってきた訳です。それに伴って、仏教福

社・仏教社会福祉について、カリキュラムの中に組み込んでいこうという動きが、出てきた。

そういった社会福祉のマンパワーの関係もあって、福祉学部・学科は、抑制外ということで、かなり増えてきたという問題と仏教系の大学における福祉学科設置と絡んで、それを担う仏教福祉・仏教社会福祉を担当できる人がいるかということが発展期のどこかで絡んでいる。

もう一つは、ここ10年位で、近年更に盛んに「宗教と社会貢献」「仏教の社会貢献」が、クローズアップしてきている。そのような中で、社会福祉或いは、福祉領域で宗教者を何らかの形で、捉えていこうという動きの中で、仏教社会福祉に関心を持たれた方が、少なからず居たように思う。それは、単に数の問題だけではなく、そういう現象との関連もあるだろうと思う。そういった意味で、社会の動向との関連も組み込んでいかなければいけないと思う。

宮城理事

特に理事の先生方には、ある程度、ご寄稿いただき、また、改めて書いていただくということが発生するかもしれないので、ご協力の程、宜しくお願い致します。平成28年、2016年の大会に間に合わせようになりたいと思う。

第4号議案：50周年記念事業について

清水理事

50周年の記念誌については、50周年記念事業の一環ということもあった。

具体的な内容については、日程調整も含め、次期理事会には、もう少し形のあるものをご報告できると思う。

代表理事

特に50周年記念という節目の事業ということもあるので、会員の中から、若手、中堅の方を登用していただきたいと思う。他の委員会、プロジェクトには、会員の方々が色々な形で関わっているので、ぜひ、こちらの方も宜しく願いたい。

第5号議案：新規研究プロジェクトについて

石川理事

既に、私どもの大学で始めている研究を学会として認めていただき、ご支援していただければと思う。仮称「仏教ソーシャルワーク研究プロジェクト」という名称で、既に進めているものをお認めいただければという内容。

今年度の状況は、平成25年度から27年度の

3カ年間で文部科学研究費助成「基盤研究C（一般）」とし、本学会員を中心とした研究プロジェクトで進めている研究活動である。

今回、平成26年度に関しては、今までの研究計画を変更し、後期活動予定の事業として、今までは、大正大学卒業者の仏教者を調査対象にして行ってきた。なかなか確認がとりにくいということもあったので、できれば、本学会の会員に会員調査を行って、進めていけたらと考えている。本日の理事・役員会に出ささせていただくこととなった。

こうした研究を始めようと思ったのは、先生方もご存じのように、今年（2014年）の7月、オーストラリアのメルボルンで国際ソーシャルワークの定義が改訂された。

そうした中で、アジア型のソーシャルワークをきちんと整理していく必要があるだろうということとなった。その時には、当然仏教を基礎に置いたソーシャルワークを明示していく必要がある。と考えている。この研究に関しまして、冒頭に申し上げた通り、文部科学省の研究費助成があるので、本学会に負担をおかけするということはない。

事務局長

事務局から補足だが、今回研究担当理事からの提案で、会員を巻き込んでのプロジェクトの立ち上げをお願いしたいということがあり、石川先生を含め、ご検討いただいた。谷山先生からも「伝統仏教教団の持つ社会資源を活用した教区福祉構想実現のための研究」というようなアイデアもいただいている。いただいたアイデアに全ては対応できないが、会員の数にも限りがあるので、それも併せて後程、説明する会員の方々の研究テーマも洗い出しているが、順次できるプログラムから立ち上げていくというところである。石川先生が主に関われる、また、既に行われているものを、本学会の研究プロジェクトとして位置付けて、学会大会での発表や年報への投稿をしていただくことで、提案をしていただいた。

谷山先生からいただきましたプロジェクトについても事務局で預かっている。研究できるメンバーも募って、実現可能性を探っていきたい。

田代理事

実は、私は、生命倫理を専門にやっていて、ピーチャムとチルドレスの4原則というものが、それも、西洋的価値観である。そこにいつも違和感を感じていた。東洋的な「自然」とか宗教的なものを加えた基準にすべき

だと思っている。同じ流れのような気がする。これは、大事なことだと思う。是非、進めていっていただきたいと思う。

石川理事を中心に既に進められている「仏教ソーシャルワーク研究プロジェクト」で、取り組んでいる事業を骨にして、同時にアンケート調査の協力・依頼について学会として協力することが、確認・承認された。

第6号議案：『仏教社会福祉学研究史（仮題）』の準備について 事務局長

経緯としては、これまで、本学会として『仏教社会福祉辞典』及び『仏教社会福祉入門』を刊行し、仏教社会福祉学の広がり（普及）に努めてきたが、今後、更に展開していくためにも、より専門的な体系化を念頭においた、『仏教社会福祉学研究史（仮題）』の刊行を目指すべきであると、この間、代表理事の長谷川先生ともご相談の上、考えてきた。

具体的に事前にご相談していた案件ではないので、まずは、理事・役員会で本書刊行の是非及び「編集刊行委員会」の設置についてご審議頂きたいと思う。

代表理事

この第6号議案の経緯については、学会の50周年という一つの節目を契機に、総力を結集した一つの証を刊行物として出せたらどうか。これは、必ずしも50周年記念大会に合わせてということではなく、もう少し先を見越したことになるだろう。色々なことが、あまりそこに結集しようとする、やはり、パンクしてしまうので、道筋を立ててやったらどうかと思う。文献目録も詳細なものがまだ、出来ていないだろうし、そういうものもきちっと押さえながら、どのようなレベルにするかはともかくとして、研究史をきちんと整理していく。それらを踏まえながら更に、先には体系化の方向に向かっていけば、というような段階を経ていく。

因みに、先生方もすでにご覧になった方もいらっしゃると思うが、ミネルヴァ書房からでしたか。『キリスト教社会福祉の歴史』は、総力を結集した刊行物となっている。これが、今年の7月位に出された。これは、50周年記念事業として取り組んできたものである。相当な歳月をかけてということになる。この日本仏教社会福祉学会においても、単なる時間の浪費ということではなく、しっかりかけながら、後世に残るようなものを出していけれ

ばと思う。これもやはり委員会を設置して整えていく必要がある。委員会を設置し、こういう方向でいくということの提案である。

清水理事

辞書が出来ました、入門書が出来ました。そうすると次に、研究史というものの中で、研究動向、その先の～論文集というものにもきつと繋がっていくであろう。私は、大変だとは思いますが、ぜひともお進めいただければと思う。

石川理事

キリスト教社会福祉学会の話があったが、歴史でまとめていくのか。学史でまとめていくのか。

代表理事

これは、どちらかという、研究史なので、やはりこれまでの会員・非会員の方も含めて、少なくとも明治以降の積み上げがあると思うので、研究史的な整理をしていく。整理の仕方に工夫が必要になってくると思う。それらも含めて、委員会で検討していただき、また、理事・役員会でお諮りをして、進めていくこととなると思う。

理事・役員から承認が得られる。

第7号議案：『仏教社会福祉入門』を活用した勉強会について

事務局長

今春刊行された『仏教社会福祉入門』について、本書を契機としてより広く仏教社会福祉を学び、理解する場を提供すると共に会員相互の交流や研究活動の活性化を図るためにも、本書をテキストとした勉強会の実施を提案したい。

事務局としては、「関東」及び「関西」という所で、人が集まれる範囲でお声掛けをする。この2地区での開催が可能であると考えているが、本提案の是非及び具体的な実施方法等について、ご意見、ご審議等をいただきたいと思っている。

代表理事

これは、前会の理事・役員会にも申し上げたことと思うが、せっかく、待望の入門書が日の目をみたので、それを活用して会員の獲得に結び付けることが出来たらなお良い。

理事・役員から承認が得られる。

第8号議案：新規会員の勧誘について

事務局長

新規会員の勧誘については、「第1号議案」でも明らかかなように会員の減少傾向が続いて

いる。この現状のまま推移した場合には、学会の定期に入れた特別基金が、100万円残っているが、これを切り崩す形でも、あと3年後には現状での学会運営は困難になることが予想される。

そのような状況に陥らないためにも、一人でも多くの方に本学会の会員になっていただく事は必要不可欠であるが、各大学の社会福祉学部・学科や大学院自体が縮小傾向にある中で、学部・大学院生の大幅な新規会員が望めない事も事実である。そこで、本案件に対して、事務局としては、

- ・仏教系社会福祉法人というものが、各宗派に、社会福祉協会等があり、そういった法人がある。職員の方全員がそういった仏教の理念を必ずしも理解しているかどうかは分からないが、そういった集まりがあるので、そういった教会を通じての新規会員への働きかけ。

- ・各宗務所内の該当部局(社会課)等があつて、今回の被災地支援等では、それぞれ宗派の部局が熱心に動いているところも沢山ある。そういったところ等への新規会員への働きかけ、団体・個人を含めてだが、そのようなことを検討しなければならないかと考えている。具体的なアイデアが必ずしもある訳ではないので、本議案についての是非及び具体的な実施方法等についてご意見・ご審議をいただければと思う。

代表理事

懇親会などの折にもご意見・お知恵を拝借しても宜しい。それにしても、何らかの動きは示さなければならない。というようにご理解いただきたい。ご協力をいただきたい。

第9号議案：アジア仏教社会福祉学術交流基金の「第50回大会」への全額助成について 事務局長

第9号議案については、第1回理事・役員会の際もお伝えし、ご了解いただいていると思うが、明日の総会に、諮らなければならないので、ご審議いただければと思っている。

アジア仏教社会福祉学術交流基金の「第50回大会」への全額助成についてだが、第1回理事・役員会において、平成27年度の本学会第50回学術学会を、第39回学術大会(大正大学で行われたもの)に引き続いて「第2回アジア仏教社会福祉学術交流大会」とする決定を受け、「第1回 アジア仏教社会福祉学術交流大会」のために集めたお金、残余金を助成金として置いておいたが、この間、2件の申し込みのみだった。また、今回、複数の国の方々をお

呼びするという事もあるので、大会運営費プラス資金も必要ということにご理解いただいて、現在、第39回学術大会実施に際して集められた寄付金を原資として実施している「アジア仏教社会福祉学術交流基金研究・公開助成事業」の残余金487,090円を、本寄付金の本来の趣旨に鑑みて、「第2回アジア仏教社会福祉学術交流大会」実施に係る助成金として全額配分させていただけないか、本議案に関する是非についてご審議頂きたい。

石川理事

「第1回 アジア仏教社会福祉学術交流大会」の際には、三友先生が寄付を募って、色々な仏教の団体からもご寄付を頂戴したというようにもございますので、ぜひ、より、発展的に進めているということなども含めて、ご案内をしたらどうか。

渋谷理事

予算を立てた段階で検討させていただき、理事・役員会に諮らせていただきたいと思います。

代表理事

今、お二方からのご提案があつたように、できる限り、前にご寄付いただいた所も含めて、ご案内を差し上げ、大会が盛り上がるようにしていただきたい。予算の配分については、今後十分検討をした上で、それぞれの出所をはっきりさせる必要がある。

理事・役員から承認が得られる。

報告事項：①各会員の研究テーマ調査について

事務局長

ニュースレターを今年度お送りした際に、一緒に同封させていただいたものである。研究プロジェクトに積極的に入っていただきたいということで、それには、会員が、どんな研究や関心を抱いているのかをお聞きし、調査したもの。

減少傾向といえども、会員数が199名いるので、もう少し回答をいただきたい。

引き続き第2号のニュースレターを送る際に、再依頼ということで送る予定である。

報告事項：②第49回学術大会の準備状況について

小島理事

第1日目の午前中に大会記念講演があり、午後、公開シンポジウムがある。明日、参加を希望されてる方が、40名。情報を新聞等で流したので、一般の参加者も数名みえられるのではないかと。

事報告事項：③担当理事の報告について

小笠原理事

新編集委員会のメンバー決定。以下の通り。

大久保秀子（浦和大学・新任）、栗田修司（龍谷大学・新任）、長崎陽子（行信仏教学院・新任）、藤森雄介（淑徳大学・留任）、小笠原慶彰（神戸女子大学・留任）

50周年記念号（第47号）に向けての編集方針を立案するに当たって、広く投稿を呼びかける。投稿だけではなく、依頼もしなくてはならない。

また、投稿規定、執筆要領等の見直しが必要。他の学会等、日本社会福祉学会は、かなり細かい規定となっている。もう少し統一した方がいいのではないか。特に投稿規定を来年度に向けて検討していきたいと考えている。

代表理事

1つお願いしたいと思うが、社会福祉学会ほど細かくなっていいと思うが、倫理規定をお願いしたい。

実は、社会事業史学会において、昨年度倫理規定を作った訳ですが、それには、色々経緯があって作ったこともある。1つその辺をご検討いただければと思う。

代表理事

それでは、震災対応プロジェクトについて

藤森理事

前期事業：全日本仏教会さん等の協力をして各宗派・宗門、仏教系の団体、被災地の寺院への取り組み状況についてのアンケートの結果をとりあえず、ドラフトの形ではあるが、内部限定版としてお手元に3種類、少し厚くなって申し訳ないが、書式等出来るだけ整えて、読める形とした。

後期の事業：この10月中に科学研究費の申請がある。昨年この関連のもので、トライしたが、残念ながら採択を受けることができなかった。今回は、もう一度、この間に行ってきたアンケート等を踏まえて再チャレンジしていきたい。

代表理事

非常に貴重な調査資料が、このような形でまとまりつつある。これは、学会として取り組むべき重要課題である。他の団体との連携のもと、ここまで進んできたということは、学会の存在意義を社会的にも示していく意味においても、事業になり得ることである。

報告事項：④の学会賞について

事務局長

学会賞について、特に資料はないが、3年

に1度ということで、平成24年1月1日から平成26年12月31日の間の3年間に出版され、また、推薦いただいた「仏教社会福祉」に関連する刊行物や論文の中から学会賞・奨励賞を選考したいと考えている。

第4回の時には、残念ながら該当・推薦がいただけなかったこともある。明日の総会やニューズレター等で周知したいと考えている。平成27年1月31日（土）が締め切りとなる。推薦いただければ、選考委員会を開いて、平成27年度第1回理事・役員会の際にお諮りしたいと考えている。それぞれ、推薦に値するものがあれば、事務局まで推薦をお願いしたい。

報告事項：⑤第50回学術大会について。

渋谷理事

第50回学術大会を「第2回アジア学術交流大会」と位置づけるというのは、前回の理事会でご承認いただいた。

代表理事

淑徳大学の50周年記念事業の一環としての「国際フォーラム」と本学会の第50回学術大会の内容をリンクさせ、更に深めるという趣旨である。

報告事項：⑥その他の「会員からのご寄附について」と「会員推薦人未定の入会希望者について」の2点について

事務局長

「会員からのご寄附について」だが、「大会おのみ物」ということで7,000円の入金があった。この件については、学会への「寄付」として捉えさせていただき、次年度の決算報告には雑費収入の一つとして、「寄付」と挙げさせていただければと思う。

次の「会員推薦人未定の入会希望者について」だが、今回の理事・役員会でお聞きする旨お伝えしてある。当初の規約だと、推薦人がいないと入会が認められない原則もある。こういった方が入会希望をしていることを理事・役員会でお諮りして、事務局（案）としては、今回は、入会を認めることはできないが、関心があるということなので、ニューズレター等お送りして、ぜひ、関心があれば来年の大会に来てほしい旨お伝えし、そこで、大会の運営や個別の発表も聞いていただき、希望者の方の思いや考えと合う学会であれば、そこでお話もできれば面識も持てるので、その上で、入会の申し込みがあればお諮りしたいと考えている。扱いについては、事務局から提案させていただいたような形にしたいと思う。

理事・役員から承認が得られる。

平成26年度 日本仏教社会福祉学会 第2回 臨時理事・役員会報告

日時：平成26年10月11日（土）

11：50～12：20

場所：同朋大学Doプラザ閣蔵2階多目的会議室

出席 代表理事 長谷川 匡俊

個人理事 石川 到覚 清水 海隆

宮城 洋一郎 藤森 雄介 小笠原 慶彰

池上 要靖

団体理事 渋谷 哲 長上 深雪

三友 量順 小島 恵昭

監 事 梅原 基雄

欠席 個人理事 谷山 洋三 田代 俊孝

田宮 仁 村井 龍治

団体理事 徳岡 博巳 林 俊光 落合崇志

監 事 山口 幸照

開会 事務局長より開会を宣言

第1号議案：平成27年度予算（案）について 事務局長

お手元には、臨時理事・役員会の議案書と総会の議案書（案）の2種類を用意したが、大きくは、交通費の部分、当初の予算では、48万でとっていたが、過年度の決算状況を踏まえると、一応、29万円という範囲で考え、大幅に削減させていただいた。また、残る部分については、事務費等昨年度の予算の執行状況に応じて、スリム化をさせていただき、収入の見込める範囲内で支出の予算を立てさせていただいた。

代表理事

以上のような形で、事務局で修正をさせていただいた。

理事・役員から承認が得られる。

第2号議案：『仏教社会福祉学研究史(仮題)』 の編集刊行委員会の準備について

代表理事

昨日、十分に時間がなかったもので、その後の懇親会その他で事務局の方で、理事・役員の先生方にお聞きしていると思う。

事務局長

『仏教社会福祉学研究史(仮題)』は、編集刊行委員会のまず、準備ということで、これから半年程度かけて少し進めさせていただければと思う。限られた時間だが、何名かの先生方とご相談ができ、一応本日いらっしゃらないが、谷山先生の方に編集刊行委員会の準備の主担当ということでお話したところ、委

員会の委員長をすぐにととも引き受けられない。というお話もあった。

準備や今回事務局提案させていただいたものを具体的な内容に詰めていく中で、谷山先生を主担当としてご相談させていただきながら、来年の春の理事・役員会には、もう少し具体的なものを提案できればと考えている。

代表理事

理事・役員の方には、色々役回りのチームをお願いすることになっている。

理事・役員から承認が得られる。

第3号議案：『仏教社会福祉入門』を活用した勉強会について

事務局長

これも併せて、勉強会をするという方向性と当面、関東と関西の2ヶ所で主に会員が集まれる場所を設けて、準備していくことになると思う

関西については、長上先生。関東については、梅原先生をお願いして、準備や具体的な日程・中身について検討してもらえればと思っている。

理事・役員から承認が得られる。

第4号議案：「新規会員の勧誘について」

事務局長

主旨は、昨日、お伝えした通りで、仏教系社会福祉法人への新規会員への働きかけとか、各宗務所内の該当部局(社会課)等への新規会員への働きかけというぐらいなアイデアしか、事務局にはすぐには思いつかなかった。

清水理事

日蓮宗を例に挙げれば、宗門内機関誌があるので、そういうものに活動と会員募集を載せることはできると思う。あとは、必ずしも施設をやっているとは限らないが、社会福祉系の活動をやっている宗門僧侶の集まり、全国社会教化連合会というものがある。

また、年に1回総会をやっているのでも、そういうところでチラシのようなものを配布するとか、そこが出している数頁の通信があるので、そういうところに載せていただくなど、幾つかの手はある。

石川理事

今回、藤森先生が中心で、災害支援をやってきて、全日仏とも繋がりができて、幾つかのネットワークができたので、ご縁を繋いでいかないとなかなか伝わらない点があろうかと思う。そういう意味で、藤森先生のネットワークをぜひ、活用いただくと宜しいのではないかと思う。

代表理事

全日本仏教会さんやその他についても、今まで積み上げてきたコネクションがあると思うので、それを活用して、何らかのアプローチをしていければと思う。また、情報をいただきたいと思う。

先程の勉強会等に比較的近場の仏教系の社会福祉法人等、或いは、寺院でもいいが、関心のありそうな方に声をかけて、そして会を進めていく中で、会員のお誘いをするというようなこともあると思う。

また、会費値上げの問題にも関連するが、昨日も雑談的に懇親会の際に近場の人と話をしていたが、例えば、学会によって維持会員という形で、通常の会員よりも少し額の高い会費を納めていただく。そういう制度、或いは、賛助会員というような、こういう会員制度の改正を検討していく。即会費の値上げというのも色々な努力をしていかないと。かえって、値上げして減ってしまったというのでは、何もならないので、そういう色々な手を考えていかないとならないと思うが、差しあたりは、会員を増やせる努力を個人・団体含め、進めていきたいと思う。

理事・役員の先生方から承認が得られる。

(文責：事務局)



平成26年度 日本仏教社会福祉学会 総会報告

第49回大会初日16時より17時まで、平成26年度総会が行われました。長上深雪理事が議長に選出され、平成25年度決算及び事業報告、平成27年度予算及び事業計画、アジア仏教社会福祉学術交流基金の「第50回大会」全額助成について、報告事項として会員の異動や担当理事・委員会報告、「仏教社会福祉学研究史(仮)」の編集委員会の準備、『仏教社会福祉入門』を活用した勉強会の開催、第5回学会賞などが審議され、全案可決された。

第5回学会賞 募集要項

1 学会賞創設の意義と目的

創立40周年を契機に、仏教社会福祉研究の一層の発展を図るため、学会員のうちで顕著な研究業績をあげた者の顕彰、および若手研究者の研究奨励を目的とする日本仏教社会福祉学会学会賞を創設する。

2 学会賞の種類

創設の目的にてらし、学会賞は次の2種とする。

I 学術賞

学会員のうちで顕著な研究業績をあげた者の顕彰

II 奨励賞

学会員のうちで今後の研究の発展が期待される者の奨励

3 審査の対象

- ・平成24年1月1日から平成26年12月31日までに発表された研究業績を対象とする。
- ・学術賞については原則として刊行された著作物(単著・共著・編著等)を対象とする。
- ・奨励賞については著作物のみでなく、論文(共同執筆を含む)および共同研究成果物(報告書等)も対象とするが、共同執筆の場合は主著者であることを条件とする。
- ・対象となる論文は、共著の一部、学会誌、各大学の紀要、海外の専門誌などに掲載されたものとし、外国語のものを含むものとする。

※賞金額について：学術賞10万円、奨励賞5万円とする。

※上記に該当すると考えられる研究業績をご推薦いただける会員は、事務局までご一報ください。宜しくお願い致します。

『日本仏教社会福祉学会年報』 投稿論文の募集

※投稿規定

- (1) 本誌に発表する論文等は、未発表のものに限る。
- (2) 投稿の種類は、研究論文・研究ノート・実践報告・海外情報・資料紹介・書評・その他とし、掲載ジャンルは編集委員会において決定する。
- (3) 本誌の原稿枚数は、原則として研究論文は20,000字以内、その他は16,000字以内とし、縦書き・横書きとする。
- (4) 投稿は自由投稿および依頼投稿とし、自由投稿の締め切りは毎年1月末日とする。
- (5) 投稿に際しては、印刷原稿3部を学会事務局へ提出する。学会事務局は、提出が確認された後、投稿者へ「受付証」を発行する。

- (6) 執筆上の細目は原則、次の通りとする。
- ① 論題名、執筆者名、所属を明記し、論題名と執筆者名には欧文を添付する。
 - ② 本文は常用漢字、現代かなづかいを使用する。
 - ③ 長文の出典引用の場合は、二字下げて記述する。引用・参考文献の明記については、本文中に脚注番号を付し、本文の最後にまとめて列挙する。
 - ④ 引用・参考文献の記述は、脚注番号、編・著者名、書名または論文名、所収書名また巻・号、発行所、発行年、ページの順とする。
 - ⑤ 図表については、掲載順に番号と題名を付し、掲載箇所添付する。
- (7) 執筆者が抜刷を希望する場合は、実費とする。ただし、「基調講演」、「シンポジウム」等の学会より依頼した執筆者には、1編につき抜刷30部を贈呈する。

※投稿希望の会員は、事務局までご一報ください。宜しくお願い致します。

『仏教社会福祉入門』を活用した勉強会について

今年度の「N0. 21」のニューズレターでもご紹介し、法蔵館より発刊された『仏教社会福祉入門』を活用した勉強会を東部（東京）、西部（京都）で行う運びとなりました。

つきましては、下記に勉強会の詳細を示しますので、お誘いあわせの上、ぜひご参加いただければと思います。なお、西部（京都）は、詳細をホームページ等でお知らせ致します。

記

- ① 日時：平成26年12月5日（金）
18時30分から21時
- ② 会場：大正大学7号館7階774号教室
- ③ 題材：学会編『仏教社会福祉入門』勉強会
- ④ 参加者：筆者の清水先生、梅原先生他、
大正大学大学院生含め自由参加
- ⑤ 参加費：無料（但し、『仏教社会福祉入門』
をご用意ください。）

※なお、参加を希望される方は、事務局まで事務局までご一報いただけると幸いです。

日本仏教社会福祉学会会員の研究・関心 テーマに関する確認のお願い（再送）

本学会設立50周年へ向けて、研究活動の再活性化は、早急に取り組むべき重要な課題の

一つとなっております。

現在、理事の先生方を中心に「学会活性化」に繋がるような、内容によっては会員の皆様にも積極的に参加して頂けるような研究プロジェクトを進めている状況であります。

つきましては、本学会会員の皆様が現在どのようなテーマで研究を行っているか、またどのようなテーマに関心があるのかを確認させて頂ければと考えております。

お忙しいとは思いますが、ご協力の程、どうぞ宜しくお願い致します。

仮称「仏教ソーシャルワーク研究 プロジェクト」について

第2回理事・役員会の中でもご紹介しました通り、石川理事を中心とした、仮称「仏教ソーシャルワーク研究プロジェクト」を学会の事業として推進していくこととなりました。

つきましては、本研究に関連するアンケート調査を会員の皆様をお願いすることを考えております。その際には、ご協力の程、宜しくお願い致します。

事務局 編集後記

第49回学術大会は、同朋大学の皆様のご協力、小島実行委員長のご尽力により、盛況に終わることができました。この場を借りて御礼申し上げます。ありがとうございました。

本文中でご紹介した学会賞及び勉強会に関するご連絡、お問い合わせにつきましては、下記の学会事務局・アドレスまでご一報ください。どうぞ、宜しくお願い致します。

事務局長 藤森雄介
事務局員 渡邊義昭
藤田則貴
宗像実咲

〒354-8510

埼玉県入間郡三芳町藤久保1150-1

TEL：049-274-1511（代表）

FAX：049-274-1521

E-Mail：fujita@ccb.shukutoku.ac.jp

淑徳大学 埼玉キャンパス

社会福祉実習指導室 担当：藤田